

平成 29 年 9 月 15 日（金曜日）

対談する吉田本庄市長[㊟]と足立氏

埼玉建協児玉支部ら

埼玉県建設業協会児玉支部（竹並紀松支部長）と地元経済団体で組織する「地域の将来を語る実行委員会」は13日、埼玉県本庄市の埼玉グランドホテル本庄でシンポジウム「参議院議員足立としゆき氏と地域の将来を語る会」を開いた。足立敏之議員の基調講演、同議員と吉田信解本庄市長との対談が行われた。

基調講演で足立氏は、「世界各国と比較して日本の高速道路

地域の将来でシンポ

足立参院議員と吉田本庄市長が対談

は、車線数が暫定2車線など3車線以下の区間の比率が非常に高い。暫定2車線区間では4車線区間と比べ、死傷事故率が高く、復旧工事時に通行止めまたは片側交互通行が必要となる」と指摘し、道路整備の重要性を訴えた。

対談で吉田市長は「東日本大震災の際、緊急輸送道路となる国道17号が大渋滞となり、大きな混乱を生じた。バイパス道路となる国道17号本庄道路は15年度までは年間数億円の予算だったが、16、17年度は10億円を超え、神流川の橋梁架け替え工事も始まった。大いに期待している」と述べた。

人口減少下で地域の魅力を高める事業が不可欠とも強調。「中心市街地への投資が必要だ。電線地中化など景観を美しくする事業に重点的に予算を投じてほしい」と要望した。

足立氏は、四国地方整備局長時代に経験した高松市の丸亀町再開発などの事例を紹介し、地方創生を後押しする事業の重要性を強調した。